

は空前の規模であり、利用方法はいくらかでも考えられるであろう。それにしても、26万個のデータを含むSAO星表が4分冊の大冊であることを思うと、これだけのデータがたった2枚のうすっぺらいディスクに入っている

のを見るのは衝撃的である。また、これだけの大事業を僅か4~5年でやりとげた組織力とその結果を外国人にも無料で配布する気前のよさの前には脱帽せざるをえない。

書 評

1. 天文アマチュアのための望遠鏡光学 反射編

吉田正太郎 著

(定価 1,850 円, 誠文堂新光社刊,

発行日 '89.11.30)

2. 天文アマチュアのための望遠鏡光学 屈折編

吉田正太郎 著

(定価 2,000 円, 誠文堂新光社刊,

発行日 '89.12.10)

天文アマチュアは、誰でも星の美しさに無限の憧れを持つが、それを一層楽しくさせるのが望遠鏡です。殆んどすべての天文愛好者が持ちたがる天体望遠鏡に関する著書は、日本では比較的少ないが、今回、理論と実践面での学識経験者の含蓄ある好著が2冊続けて出版されま

したこれらの本は、中学生が理解できるように配慮されていて、現在日本では、アマチュアでも、より大きい望遠鏡をめざしていることから、天文普及関係の世界で画期的なものとなりましょう。

この2冊で望遠鏡の専門家になる事は確かでしょう。

唯、この本の内容は、著者の学識からすると、ほんの一部の知識の披露にすぎないと思われるので、再版の機会に現在世界中に普及しているスプリングフィールド式や日本中に数多く普及している五藤光学独自のクーデ式の光学系の解説が欲しいし、又望遠鏡の光学的評価法(焦点内外像や、フォーコーテスト、ロンキーテストなど)の解説もつけ加えてほしいと思うのは、単に評者だけでしょうか。

とにかくこの本は、少なくとも望遠鏡の標準書として、日本中なるべく多くの方におすすめする本であります。(坂上 務)

HAMAMATSU

C-CCDの世界

冷却CCDテレビカメラ

今、天体観測は、フィルムから
CCDカメラの時代へ移っています。
フィルムの長時間露光と同等以上の画質
と解像度が短時間で実現できます。

「馬頭星雲」60cm F4.7ニュートン直焦点C3640使用露光90秒(館山天文台にて)

超高感度冷却CCDカメラシステムは、SITカメラや高感度フィルムを大幅に上回る感度と100万画素の高解像度により、宇宙の彼方からの極微弱な光を高画質で鮮明に映し出し、高速で画像改善やデータ処理・解析を行います。

超高感度

冷却CCDカメラシステム

浜松ホトニクス株式会社

システム営業部 〒430 浜松市砂山町325-6
☎(0534)52-2141(代表) ファックス(0534)52-2139

